

朝鮮人強制連行 神岡・高山フィールドワーク

—2007年7月28日—

飛田雄一

昨年「韓国・朝鮮の遺族とともに、遺骨問題の解決へ」という取り組みがなされた。同全国連絡会（共同体表／上杉聰、内海愛子、清水澄子、殿平善彦

<http://homepage3.nifty.com/iimptc/>）が主催したもので、今年も韓国より遺族を招いて神岡・高山で7月28日フィールドワークが行われ、翌29日に名古屋で全国集会が開かれた。



招かれた遺族たち

神岡には2回目の訪問だが、私にはかのイタイイタイ病の神通川の神岡と今回の強制連行の神岡とが、つながっていない。神岡鉦山には2千名の朝鮮人が強制連行されている。



臨済宗妙心寺派両全禅寺

フィールドワークでは、朝鮮人労働者が動員された浅井田ダムを見学したのち、臨済宗妙心寺派両全禅寺にいった。ここ

には4体の朝鮮人遺骨が納められている。



遺族が判明した金文奉さんの骨箱

金文奉さんの遺骨がこの寺にあることは、すでに40年前に金逢洙さんが過去帳で確認をしており『ピットム』に記録されている。金文奉さんが済州島出身であることが骨箱に記載されているが、昨年の済州島フィールドワーク（『むくげ通信』218号、06年9月、飛田レポート参照）に参加した下畠（しもじま）さんが、済州島関係者の協力を得て遺族を確認することができたものだ。今回、このフィールドワークにあわせて遺族が来日して遺骨を引き取ることができたのである。



遺骨を受け取る金文奉さんの遺族

その後、神岡鉦山に向かった。現在は採掘を行っていない沈殿池、宿舎、坑口、事務所、学校の跡などを訪ねた。いずれもかつての面影を残すものであった。



宿舎跡



坑口跡



神岡鉱山に強制連行された金得中さん

今回、当時神岡鉱山に連行された金得中さんも同行し、高山で当時の様子を草原してくださった。

次に訪ねたのが、曹洞宗洞雲禅寺。ここにも2体の朝鮮人の遺骨が納められている。そのうち李道教さんの本籍が今回確認された。現在までに確認されている81人の神岡鉱山関連の死亡者を追悼して、その氏名、死亡年月日が読み上げられるなか、全員で81本の花を奉げた。



本籍が確認された李道教さんの遺骨

高山にもどり、もう一カ所、本教寺を訪ねた。この寺のある地域は総連、民団の事務所もあるところだ。前々の住職が朝鮮人に理解のあった方で、戦後に多くの遺骨を預けられたとのことだ。46体の遺骨のうち高山市役所の調査により26体の遺骨の本籍が確認されている。女性、子どもの遺骨も多い。なんらかの事情で遺骨がこのお寺に預けられたのである。



本教寺の遺骨

遺骨は単なる「もの」ではない。そこには、その人物の「すべて」が集約されている。いつ、どこで、どのように亡くなり、どうしてここにあるのかを明らかにして、遺族のものと届けられなくてはならないのである。



フィールドワークのメンバー